RV light（仮称）

取扱説明書

RV lightを快適にお使いいただくための大切な内容が記載されています。お使いになる前によくお読みいただき、また必要なときにはいつでも見ることができるよう大切に保管してください。

RV light の特長

●ワンタッチで簡単折りたたみ

●姿勢保持機能付
- 調節スリングシートによる背座調節
- トランクサポートベルト、骨盤サポートベルト
- 外転防止パッド付の座シートクッション

●広い荷物搭載スペース

●座面奥行き、フットサポート高さ調整式

●シートユニット
- 背シートには身体の近くからベルトを取り出せる体幹ベルト用のWファスナーを装備
- 全体にメッシュ生地を採用し、さらに背シートクッション材にも通気性と圧分散に優れた立体編物フュージョン(10mm)を採用

●高さ調節付の開閉式アームサポート（オプション）



※製品の仕様は改良のために予告なく変更することがあります。

目　次

- 安全にお使いいただくために……P1・2
- 各部の名称……P3
- 製品構成……P3
- オプション部品……P3
- 使用前点検……P3
- 各部の取り扱い……P4･5･6･7
- 調節スリングシートについて……P8
- 開き防止ベルトの取り扱い……P8･9
- 車への積み下ろし……P9
- 車いすの取り扱い……P10
- 折りたたみ方･開き方……P11･12
- お手入れ･メンテナンス……P13
- 仕様……P13

安全にお使いいただくために

本書記載事項以外の使用はしないでください。

この絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。

この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

●警告（使い方を誤ると、死亡または重傷を負う可能性が想定される事項です。）

- 本人を乗せたまま放置しないでください。
- はずみをつけたり、つき放したりしての移動（走行）はしないでください。
- フレームの折れ・曲がり、ベルト類のやぶれやマジックテープの劣化、各部が破損した状態での使用はしないでください。
- ブレーキの効きが弱い、折りたたみの動きがぎこちないなど、各部に不調をかかえたままでの使用はしないでください。
- エスカレーターでは使用しないでください。（一般的にも禁止されています。）
- 子供に操作させないでください。
- 坂道での駐車はしないでください。
  （ブレーキの効き具合によっては、ブレーキをかけても勝手に走り出す場合があり大変危険です。やむをえず駐車するときは必ず介助者が付きそってください。）
- 座席や背もたれ、フットサポート等に立たせないでください。
- 本人を座らせたままで、本体を抱えて移動しないでください。　持つ位置によって、各部角度可変機構が急に動いてしまったり、下フレームが急に折りたたんで介助者の手をはさむおそれがあり、大変危険です。
- 処方上、また安全上必要とされたシートベルト類は必ず使用してください。
  （身体状況などによりベルトの使用が困難な場合は処方医や取り扱い業者にご相談ください。）
- 乗せ降ろしをするときは必ずブレーキをかけてください。
- 火気に近づけないでください。シートが燃えたりフレーム本体が熱くなり、火傷するおそれがあります。
- 自動車の中では使用しないでください。車内で、車いすにかかる様々な動き、負荷は予測ができないため、フレームの強度、安全面については保証いたしかねます。
- 屋外で使用中に雷が鳴りだしたら、すぐに降りて安全な場所に移動してください。
- 改造や分解はしないでください。

●注意 （使い方を誤ると、人が傷害を負う可能性、または物理的障害が発生する可能性が想定される事項です。）

- ❗ 医師の処方で製作された場合
  - ⃠本人以外での使用はしないでください。
    （個人用に処方された補装具となりますので、安易に貸し出したりしないでください。）
  - ⃠処方目的以外での使用はしないでください。
- ❗ 段差越えの際のキャスター上げ操作はティッピングバーを利用して正しくおこなってください。誤った方法でティッピングをおこなうと、フレームが破損したり、けがのおそれがあります。
- ❗ エスカレータの出入り口付近（特に手すり巻き取り部）、エレベータ、自動ドア等の付近で使用する際は、はさまれないよう注意してください。
- ❗ 悪路や坂道では特に注意して操作してください。バランスをくずして転倒することがあります。
- ❗ 折りたたみおよび開き操作、またリクライニング操作のときは各部が連動して動きます。指などをはさまないよう注意して操作をおこなってください。
- ❗ 製品を持ち運ぶときは、折りたたんだ製品が不用意に開かないように開き防止ベルトでしっかり固定されていることを確認してください。（開き防止ベルトおよび持ち運びについては9ページを参照してください。）
- ❗ 周辺に小さなお子様がいるときは、指や手足をはさむなどして、けがをするおそれがありますので十分に注意して使用してください。
- ⃠ 折りたたみ、および開き操作の途中の段階での使用はしないでください。
- ⃠ 座席から身体を乗り出したような姿勢では使用しないでください。
- ⃠ 二人乗りなど多人数での使用はしないでください。
- ⃠ 押し手グリップに重い物を引っ掛けないでください。状況によっては、急に後方に倒れることがあります。
- ⃠ 子供が背もたれなどにぶらさがらないようにしてください。背もたれなどに子供がぶらさがったりすると、後方に転倒する可能性があり大変危険です。
- ⃠ 子供の遊び道具として使用しないでください。
- ⃠ 保護者・介助者等が寄り掛かったり、腰掛け・踏み台として使用しないでください。
- ⃠ 調節スリングシートやインナーパッドが不適切な状態での使用はしないでください。
- ⃠ シートを取り外した状態での使用はしないでください。
- ⃠ 気温の差の激しい場所や異常に高温な場所（車中など）に製品を放置しないでください。フレームが傷むばかりでなく、熱くなったフレームで火傷をしたり高温になったシートに座ることで、体調に悪影響をおよぼすことがあります。
- ❗ 本人の体質や体調によっては、かゆみ・かぶれ・湿疹などを生じることがあります。そのような場合には直ちに使用をやめ、医師の診察を受けてください。
- ❗ 本人の体調が著しく低下しているときは、十分に注意して使用してください。
- ❗ 長時間座らせたままにしないでください。時間設定については処方医・医療機関・セラピストに相談・確認の上、ご使用ください。
- ❗ 定期的に処方医・取り扱い業者のチェックを受けてください。
- ❗ からだに合わない状態での使用はしないでください。成長や状態の変化を感じたときは、すみやかに処方医のチェックを受け、適切な指導のもとに取り扱い業者の調整を受けてください。
- ❗ 各部のガタやねじのゆるみ、タイヤのすりへりなどは、思わぬ事故につながることがあります。定期的に不具合がないか確かめてください。
- ⃠ 製品をゆすったり、踏んだりなどの乱暴な取り扱い、落としたり、たたいたりなど強いカや衝撃を与えないでください。フレームが破損することがあります。
- ❗ 水にぬれた場合、そのままにしておくと部品にサビが出ることがあります。乾いた布ですみやかに拭きとってください。メカロック・ガスタンパーなどは特に水にぬらさないよう注意してください。
- ⃠ 水中での使用は絶対にしないでください。
- ⃠ 荷物等の運搬に使用しないでください。
- ❗ 保管するときは、湿度の高いところ、雨が降りかかるところを避けて、風通しのよい屋根のあるところで保管してください。

使用を取りやめるときには（不要になったときには）取り扱い業者にご相談ください。

各部の名称





※アームサポートとアンダートレイはオプションです。

製品構成

	個　数
●基本フレーム	1

●調節スリングシート（背・座）	各1
レッグサポート	1

●シートユニット	背シート	1
	座シートクッション	1
	ヘッドサポート	1
	トランクサポートベルト	1
	骨盤サポートベルト	1

オプション部品

●日除け
●アンダートレイ
●アームサポート
●テーブル
●体幹・骨盤サポートインナーパッド左右1対

使用前点検

◎ブレーキが正常に効くことを確認してください。

◎折りたたんだ状態から開いたときは、各部のロックが確実に効いているなど、正しく開いていることを確認してください。

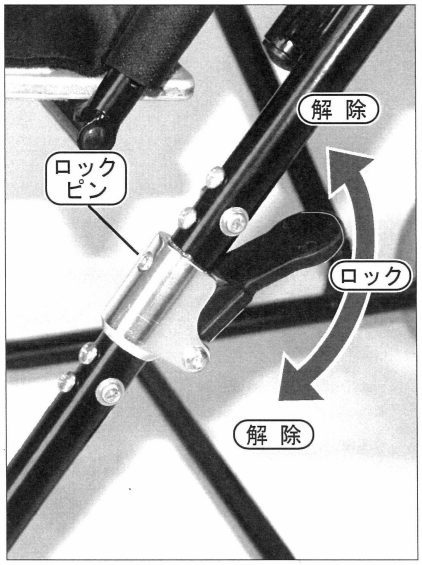
◎ネジのゆるみやガタがないことを確認してください。

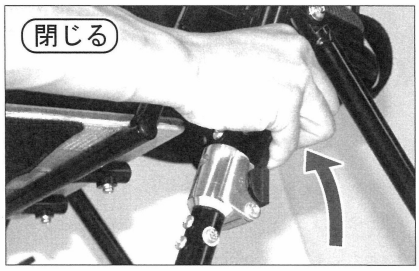
◎前輪キャスターや後輪にヒビ割れや欠け、破損がないことを確認してください。

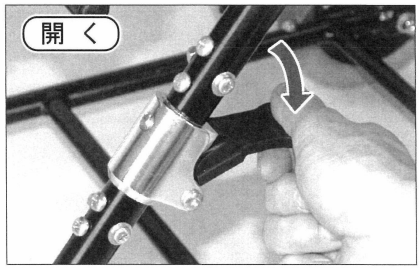
各部の取り扱い

●折りたたみレバー

RVライトを折りたたむ際に操作します。
レバーを閉じる、もしくは開くとロックが解除します。折りたたみのときは、基本的にレバーを握りながら(閉じる)解除してください。折りたたみから開くときには自動的にロックされますが、左右のロックがかかっていることを確認してください。
ロックピンが表面よりわずかに出ているぐらいが、ロックの目安です。
※凹んでいるときはレバーにガタつきがあり、ロックされていません。







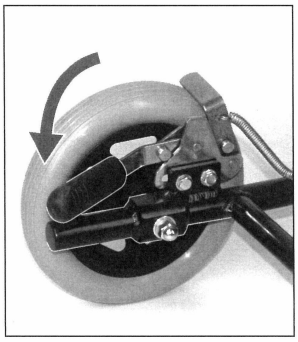
- 折りたたむときのレバー操作(ロック解除)時には、手や指などをはさまないように十分に注意してください。
- 近くに小さなお子様がいないことを確認してください。
- お子様には絶対に操作させないでください。

●ブレーキ

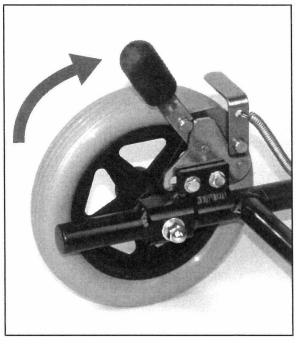
停車するとき、乗り降りのときに使用してください。
ブレーキレバーを下方に倒すとブレーキがかかります。
そこから上方に跳ね上げると、ブレーキが解除されます。

- 乗り降りの際は、必ずブレーキをかけてください。
- 坂道や傾斜のある場所では駐車しないでください。
- ブレーキの効きが弱く感じられる場合は停車中に動き出すことも考えられ危険です、すみやかに取り扱い業者にご相談ください。

ブレーキをかけた状態

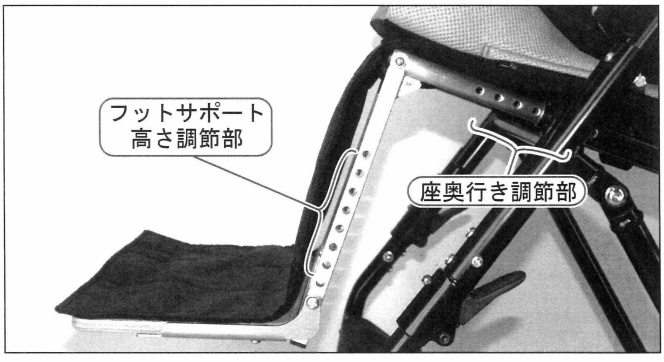


ブレーキを解除した状態



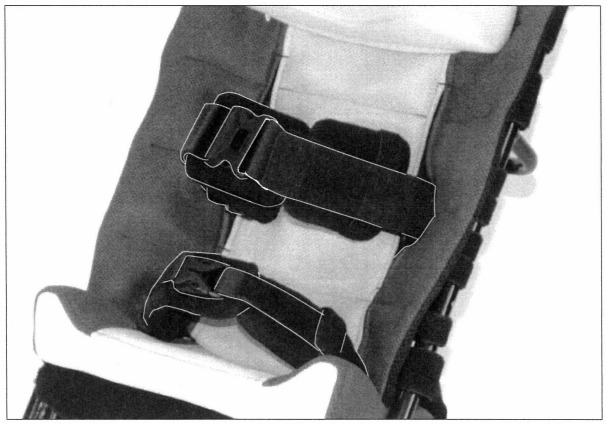
●座奥行き調節とフットサポートの高さ調節

使用される方の大腿長、下腿長に合わせて座奥行きの調節とフットサポートの高さ調節ができます。
ボルト・ナットにより設定されています。
座奥行き調節は15㎜間隔で、フットサポートの高さ調節は15㎜間隔で調節できます。
(Sサイズのフットサポートは20㎜間隔)
座の奥行きを伸ばしたときは、座クッションも前方へ付け直してください。



各部の取り扱い

●トランクサポートベルト・骨盤サポートベルト



［トランクサポートベルト］

身体により近い、背シートのダブルファスナーからベルトを取り出しているため、外側からの胸ベルトよりも高いホールド力を得ることができます。
長さと取り付け高さの調節がおこなえます。(マジック式)
取り付けの際、高さを合せる目安としては、わきの下に指一本分のすき間を空けるようにしてください。
開口部のダブルファスナーは、ベルトにあたるところまで上下からしっかり閉じてください。正面のバックルをカチッと奥までしっかり差し込んで、外れないことを確認してください。

［骨盤サポートベルト］

クッション性の高い腸骨パッド(左・右)によりベルトの当たりを柔げ、またサポート力を高めるためにバックルの左右にあるマジックテープでベルトの締め加減の微調整をおこなうことができます。
(この微調整はベルト装着におこなうことも可能です。)
ベルト全体の長さは、取り付け部のアジャスターで調節してください。

> ・処方上必要とされたベルト類は、安全のために必ず装着してください。
> ・ベルト類はバックルをカチッと奥までしっかり差込んで、外れないことを確認してください。

●押し手・日よけ差し込み部について

RVライトの押し手グリップは固定タイプとなります。
段差を乗り越える際にも使用しますが、押し手グリップの操作だけで、乗り越えようとしないでください。
くわしくは、10ページの「車いすの取り扱い」をご覧ください。



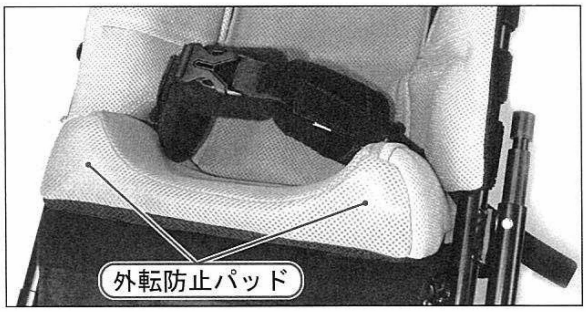


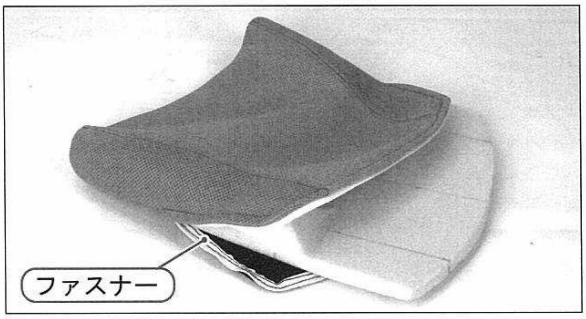
> ・押し手には物をぶら下げないでください。後方転倒のおそれがあります。
> ・子供がぶら下がらないよう注意してください。

各部の取り扱い

●座シートクッション

座シートクッションには、臀部の前すべりを防ぐ目的のアンカーサポート(ウェッジ)と脚の開きを外側から支える外転防止パッドが備わっています。
クッションの形状でアンカーサポートの機能をもたせていますが、さらに座スリング調節で矢状面方向の調節をおこなうこともできます。
カバーを洗濯する際は、後方のファスナーを開けて中のウレタンクッションを取り出してください。

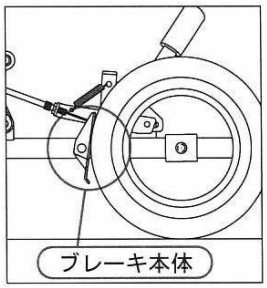


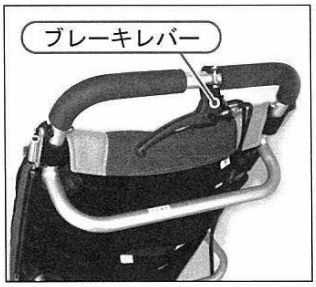


・決してクッションが入ったままで洗濯しないでください。ウレタンクッション、カバーともに乾かないばかりか、ウレタンクッションそのものが劣化してしまいます。

●キャリパーブレーキ（オプション）

走行中や坂道でスピードを加減するブレーキです。
ブレーキレバーは、両方同時に均等な力で握ってください。片側だけ強く握ると、車いすの向きが急に変わってしまい危険です。





・キャリパーブレーキの効きが弱くなってきたと感じたときは、ブレーキ本体にあるマイクロアジャスターなどでワイヤーの張り調整をおこなってください。

●アンダートレイ（オプション）

日常的に使用される身の回り品などを搭載するためのものです。
アンダートレイ底面裏側と正面側のマジックテープで本体フレームに取り付けます。
荷物を載せる場所によっては(前方や後方寄りなど)搭載物が傾くなどして少々不安定になることも考えられます。できるだけ本体フレームのパイプ上に載せるようにしてください。

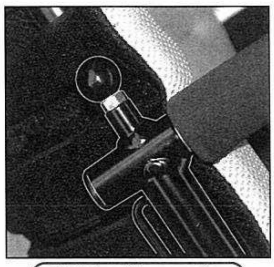


・搭載される機器によってアンダートレイ本体のクッション性が必要な場合は、個別対応となるため取り扱い業者にご相談ください。
・荷物のサイズや置き方によっては、フットブレーキの操作がやりづらくなることも考えられます。ご注意ください。
・折りたたむ際には、アンダートレイから荷物を降ろしてください。載せたまま折りたたみをおこなうと、荷物や機器類を破損するおそれがあります。

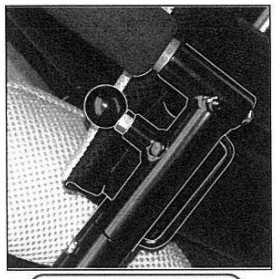
各部の取り扱い

●開閉･脱着式アームサポート（オプション）

姿勢の安定、身体の乗り出し防止をはかるための部品です。
右側のボールピンを操作することにより開閉します。
もう一方左側のボールピンを解除すると脱着も可能です。
また、手・肘の高さ、成長に合わせて高さ調節がおこなえます。



開閉用ボールピン

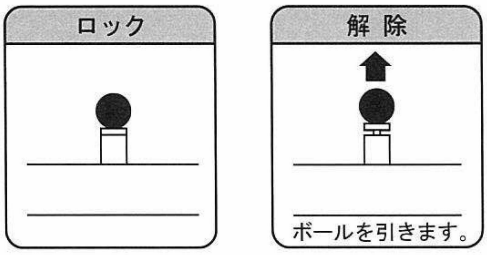


脱着用ボールピン



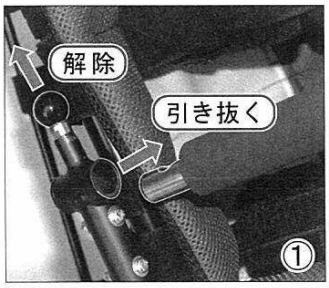
・開閉・脱着の際は、周囲に小さなお子様がいないことを確認してください。

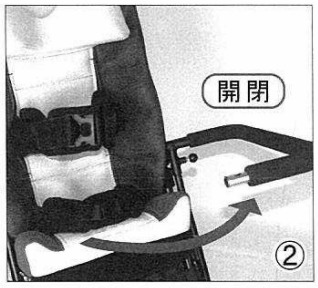
・ボールピンの操作方法

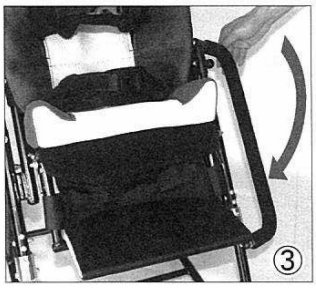


[開閉の方法]

① 右側のボールピンを操作してロックを解除すると、アームサポートを前方へ引き抜くことができます。
② そのまま、左へ回転して開閉します。
③ 開閉した後、下方へ回転させることができます。







・開閉・脱着の際は、周囲に小さなお子様がいないことを確認してください。
・開閉・脱着の際は、ボールピンや開閉、脱着部周囲で指や衣服などをはさまないように注意してください。

[脱着の方法]

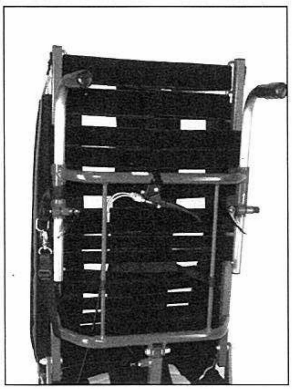
開いた後、左側のボールピンを操作すると、取り外すことができます。ボールピンのロックを解除したままグラブバーを上方へ抜き取ってください。

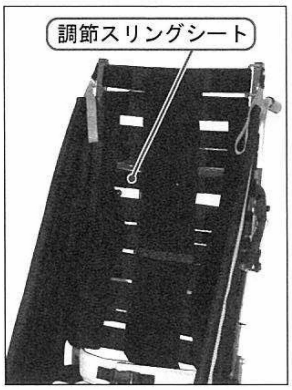




・開閉・脱着の際は、周囲に小さなお子様がいないことを確認してください。
・取り外したアームサポートを子供が振りまわして遊ぶなどしないよう取り扱いには十分に注意してください。

調節スリングシートについて



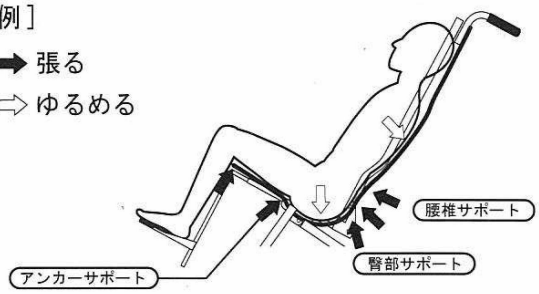


帯状のスリングベルト(マジック式)の張り加減を調整することで、使用される方の身体特性に個別に対応することができます。
矢状面に加え、水平面の調整もおこなえます。

［調整例］

➡ 張る

⇨ ゆるめる



背もたれは、①骨盤の前後の傾き(背もたれ下部) ②体幹の前後の傾き(背もたれ中央～上部) ③腰部の支え(背もたれ腰部)を考慮して調整します。また、左右の張りを変えることができるので、側弯による背中のろっ骨隆起などの非対称にもある程度対応できます。
座面は、坐骨前部から大腿部はしっかりと張って、臀部(坐骨周辺)をゆるめてお尻を包み込むようにして、臀部を安定させ前すべりを起きにくくするのが一般的です。

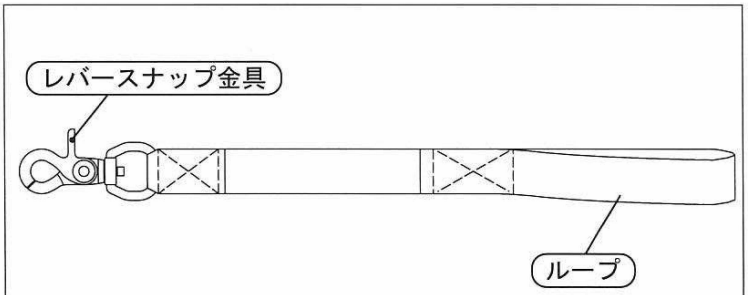
長期間使用するうちにスリングシートに伸びが生じることがあります。このようなときはシートの張り具合を再度調整してください。

開き防止ベルトの取り扱いについて

開き防止ベルトはRVライトを折りたたんだときに、フレームが開かないようにとめておくためのベルトです。
取り扱い説明をよく読み、正しくお使いください。

● 開き防止ベルト・各部の名称

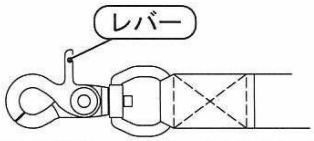
- 折りたたみ後、レバースナップ金具をベースフレームの受け金具にかけて使用します。
- レバースナップ金具の開閉部が正常に動くこと、ロックされることを常に確認してください。



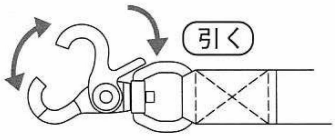
● レバースナップ金具の取り扱い

レバースナップ金具をベースフレームの受け金具にかけるときは、レバースナップ金具の根元周辺部を握り、レバーを親指で引いて開いてください。開いたままベースフレームの受け金具にかけたら親指を離してください。自動的に閉じてロックがかかります。

- レバースナップ金具の開閉部で指などをはさまないように注意してください。
- ベースフレームの受け金具にかけたら、ロックされていることを必ず確認してください。



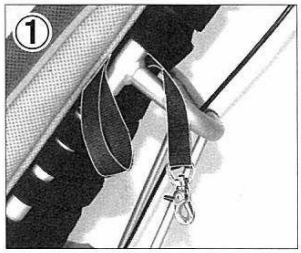
• 開閉部は親指でレバーを引くと開きます。



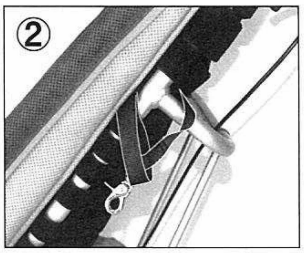
• ロックする(閉じる)ときはバネの力で戻ります。

開き防止ベルトの本体への取り付け方法

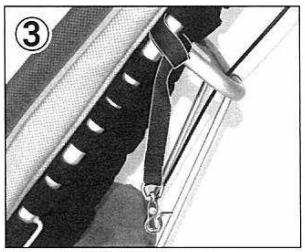
開き防止ベルトは、左の背フレームパイプに取り付けます。
取り付け位置は上からおよそ1/2を目安にしてください。
本機を折りたたんだときに、開き防止ベルトをベースフレームの受け金具にしっかり固定することができます。



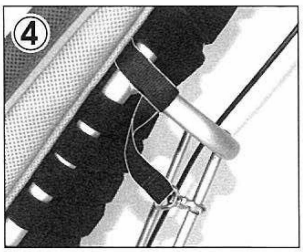
開き防止ベルトのループを背パイプ内側から背フレームのスリット(またはスリングの間)に通します。



ループにレバースナップ金具をくぐらせてください。
ベルトがねじれないように注意して通してください。

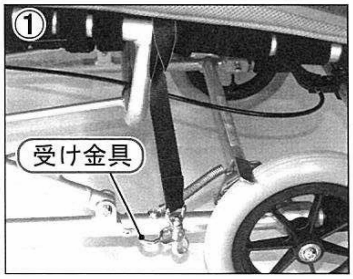


ループのところに余りやたわみがないようベルトをしっかり引きってください。

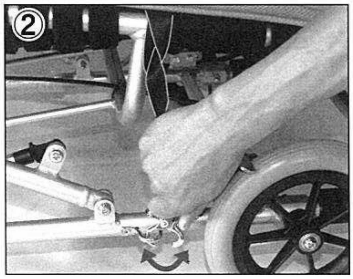


通常の使用(折りたたんだとき以外)ではベルトがぶらつかないようにレバースナップ金具をトランクサポート用ピラーにかけてください。

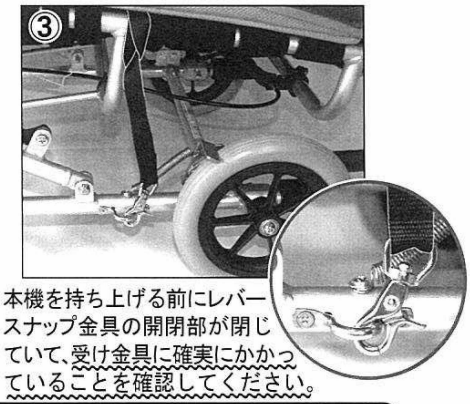
開き防止ベルトの使用方法



折りたたんだら、写真のように開き防止ベルトをベースフレームの外側にある受け金具に取り付けます。ベルトがねじれないように注意してください。



レバースナップ金具を開いて受け金具にかけてください。



本機を持ち上げる前にレバースナップ金具の開閉部が閉じていて、受け金具に確実にかかっていることを確認してください。

- 開き防止ベルトを使用するときは折りたたんだフレーム部、各部で指などをはさまないように注意してお取り扱いください。
- 持ち運びや立てかけておく際は、開き防止ベルトを正しくとめて、レバースナップ金具の開閉部が閉じていることを確認してください。
- 開き防止ベルトをとめていなかったり、とめ方が不適切な状態(ベルトの通し方に誤りがある、レバースナップ金具の開閉部が閉じていないなど)では、フレームが不用意に開いてしまい、手や指をはさむ、周囲の物が破損するなどのおそれがあり危険です。使用方法にしたがって正しくとめてください。
- ベルトおよびレバースナップ金具の損傷や劣化に気づいたときは、すみやかに新品と交換してください。開き防止ベルトが傷んでいると、フレームが不用意に開いてしまい、手や指をはさむ、周囲の物が破損するなどのおそれがあり危険です。
- 車への積み降ろしなど、抱え上げるときは下記の説明にしたがい十分に注意して取り扱ってください。誤った抱え方をすると持ち上げた瞬間の衝撃でフレームが不用意に開いてしまい、手や指をはさむ・周囲の物が破損するなどのおそれがあり危険です。

車への積み降ろしなど、抱え上げるときの注意

自動車のトランク(荷室)に積み降ろしをする際は、以下の点に注意して取り扱ってください。

図Ⓐのように持つ位置に注意して正しく取り扱ってください。

Ⓐ



○ベースフレームを持ち、全体をかかえてください。

図Ⓑのような持ち方では、持ち上げたときのショックで思いがけずフレームが開いてしまい、手や指をはさむおそれがあり大変危険です。

Ⓑ



×背パイプのみで持ち上げる。

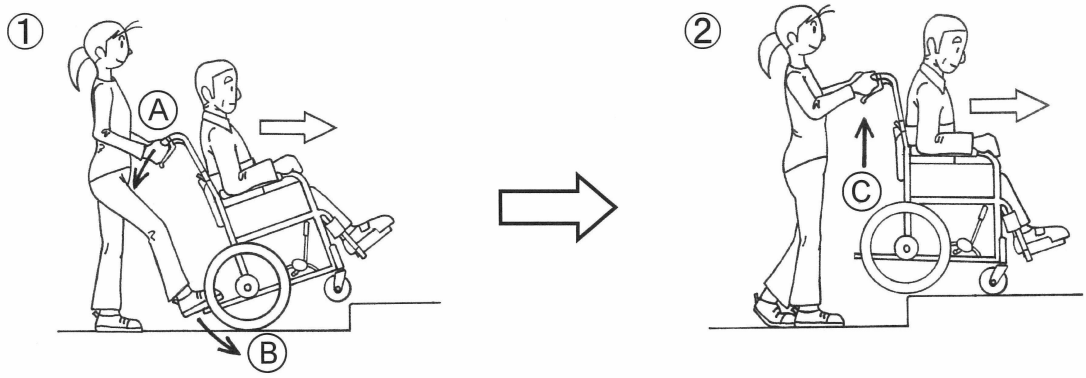
①やむを得ず横向きにして持つ場合は、開き防止ベルトの装着を必ず確認してください。開き防止ベルトが不十分だとガスダンパーにより急に拡がるおそれがあります。



①横向きに持つ。
※ガスダンパーは持たないこと。

車いすの取り扱い

●段差越えの仕方



①前輪が段差の直前にきたら

A. 両手で押し手グリップを手前にひきながら・・・

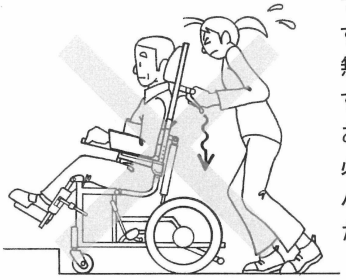
B. ティッピングバーをななめ前方に踏み込むと前輪が上がるのでこのまま前方に進み、前輪を段上にのせます。

②そのまま進んで後輪が段差の直前にきたら

C. 押し手グリップを持ち上げて後輪を浮かせ、そのまま前方に進み後輪を段上にのせます。

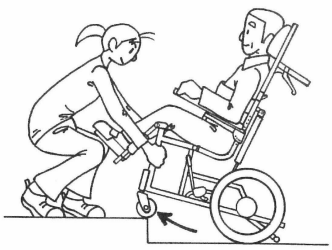
> ⓘ 絶対に勢いをつけて乗り越えようとしないでください！
> （前方転倒や乗っている方の転落、車いすの破損などのおそれがあります。）

⃠ 押し手グリップだけでの前輪上げは禁止！



ティッピングバーを利用せずに押し手だけの操作で無理に前輪を上げようとすると車いすが破損するおそれがあります。
必ず押し手とティッピングバーの両方を利用してください。

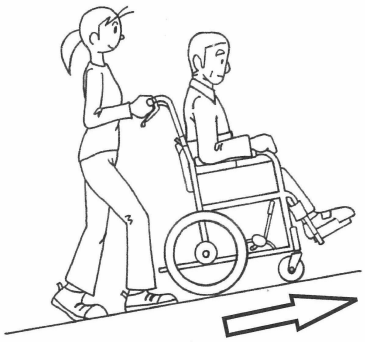
後方からの段差越え操作がむずかしい場合は車体前方を直接持ち上げる



リクライニング車などで後輪位置がより後方にある場合は、押し手とティッピングバーの操作での段差越えは困難な場合があり、無理をすると車いすが破損することがあります。
そのような場合は車体前方を持ち上げて段差を乗り越えてください。

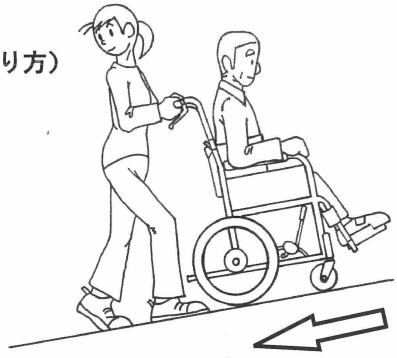
●坂道での操作について

（登り方）



登り坂

（下り方）



下り坂

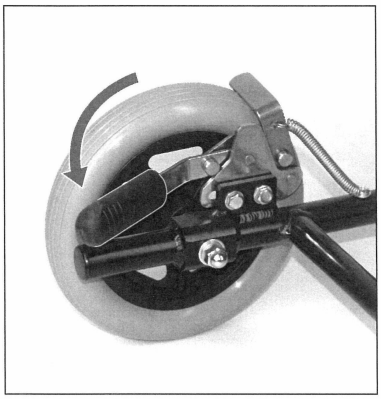
坂道の登り降りでは、車いすの操作を特に慎重におこなってください。登り坂は前向きで、下り坂は図の様に後ろ向きで進んでください。特に下るときに前向きに進むと、前方に転倒したり、スピードが出過ぎて止まらなくなったりする恐れがあり大変危険です。

> ⓘ 押し手グリップに体重をかけすぎると前輪が持ち上がり後方へ転倒することがあります。

・折りたたみおよび開き操作のときは各部が連動して動きます。指などをはさまないよう注意して操作をおこなってください。
・周辺に小さなお子様がいるときは、特に注意してください。
・傾斜や段差がある不安定な場所では作業をおこなわないでください。
・折りたたみおよび開き操作時は床面等を傷つけることがありますので十分注意して取り扱ってください。

折りたたみ方

1



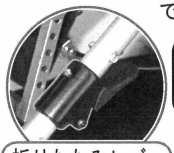
フットブレーキ(左・右)をかけてください。アンダートレイの荷物や機器は別に移してから、折りたたみを始めてください。

必ず手順に従って折りたたみ操作をおこなってください!
手順を誤るとコンパクトに折りたためなくなります。

2



前脚部左右にある折りたたみレバー(4ページ参照)を操作してロックを解除します。握りこんだまま前脚パイプを前方へ送り出すようにして折りたたんでいきます。



折りたたみレバー

手ばさみ注意!

3

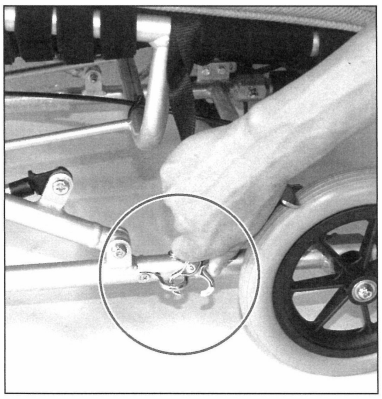


背フレーム周辺を持ち、座席部分の重さを支えながら、前方斜め下へゆっくりとたたんでください。

手ばさみ注意!

開き方

1



開き防止ベルトを外してください。(9ページ参照)

必ず手順に従って開き操作をおこなってください!
手順を誤ると部品がフレームに引っかかるなどして、開かなくなることがあります。

2



背フレームを持ち、上方へ引き上げるようにして開いてください。

手ばさみ注意!



背フレーム周辺を持ち、座席部分の重さを支えながら、後方斜め上へゆっくりと持ち上げてください。

・持ち運びや立てかけておく際は、開き防止ベルトをしっかりとめて、レバースナップ金具が受け金具に確実にかかっていることを確認してください。
・開き防止ベルトのとめ方が不適切なまま持ち運んだりすると、フレームが不用意に開いてしまい、指や手をはさむ・周辺の人や物にぶつかるなどのおそれがあり危険です。
・開き防止ベルトの取り扱いについては、9ページを参照してください。



手ばさみ注意！

4



フットサポートをたたんでください。

5



背フレームについている、開き防止ベルトを装着してください。(9ページ参照)

3



ガスダンパーの補助力によって、前足フレーム左右のロックピンが自動的にロックされます。

・使用前にはロックがかかっていることを確認してください。(4ページ参照)

4



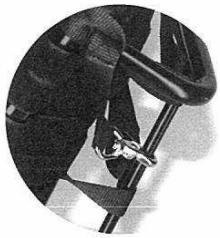
フットサポートを開いてください。

手ばさみ注意！

5



開き防止ベルトのレバースナップ金具をトランクサポートピラーにかけてください。開き防止ベルトのぶらつきがとめられます。(9ページ参照)



お手入れ・メンテナンス

・フレームは絶対に水をかけて洗わないでください。フレームなどの各部汚れは固絞りした布で拭きとってください。
※フレーム塗装部分は、たわしなどで強くこすると傷が付き、塗装が剥がれることがあります。
※特にガスダンパーに水がかかると故障の原因になります。水に濡れたときは乾いた布ですみやかに水気を拭きとってください。

・可動部分の動きが悪くなった場合には、その部分のゴミやホコリなどを取り除き、潤滑油等を適量さしてください。
※ガスダンパーやベアリングには注油しないでください。故障の原因になります。

・シートを洗うときは、マジックテープをすべて相手側に接着した状態できれいに折りたたみ、軽く押し洗いするか、洗濯ネットに入れるなどして、生地を傷めにくい方法で洗ってください。洗ったあとは、陰干しして乾燥させてください。

・保管するときは、湿度の高い場所や雨が降りかかる場所を避けてください。雨や水のかからない風通しのよい場所で保管してください。雨や水にぬれると、各部品、機構にサビが生じるなどして故障の原因になります。また湿度の高い場所では、シートにカビが生えるなどして生地を損なうばかりでなく、健康に害をおよぼすおそれがあります。

・オプションのインナーパッド、ヘッドサポートは、ファスナーによる開閉式です。
ファスナーを開き、中のクッションを取りだしてからカバーを上記の要領で洗濯してください。

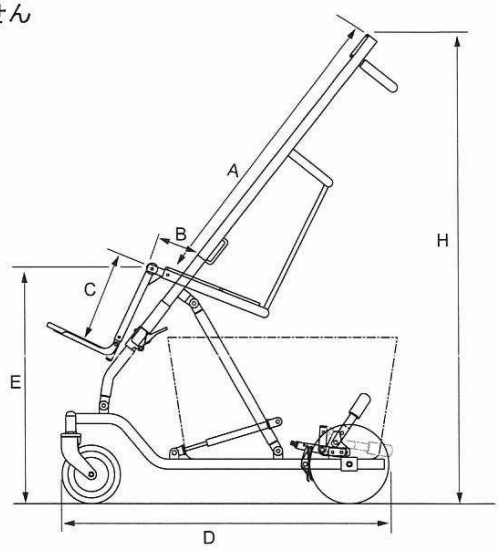
・調整や修理などは、まず取り扱い業者にご相談ください。

仕　様

※基本重量＝標準的なシートユニットを取り付けた場合の重量

		S	M
背 座 幅	mm	(背)360/(座)310	(背)385/(座)335
背 高 さ (A)	mm	660	660
座奥行き (B)	mm	180～270	230～335
足台高さ (C)	mm	105～225	215～320
車体寸法(W×D×H)	mm	525×750×1055	555×750×1030
前 座 高 (E)	mm	520	540
折りたたみ寸法(W×D×H)	mm	525×880×385	555×860×410
座角度（座パイプ）	度	20°	
基本重量(シート重量含む)※	kg	9.5	10.3
調節スリングシート	材質	ナイロン100%	
シートユニット	材質	ポリエステル100%	
対応身長	cm	約90～110	約110～130

※基本重量には、アームサポート、アンダートレイは含まれません



取り扱い業者・連絡先

2017.4.24

製造・発売元　**（株）きさく工房**　福岡県糟屋郡宇美町障子岳南5-10-11　TEL (092) 932-7600